

キラリ☆シニアライフ

～現役の病棟ボランティア～

藤野 宣子さん ～一関市千厩町 80歳～



一関市千厩町に、県立千厩病院があります。この病院で高齢者の方のために、会計をお手伝いしたり、病院を案内したりする「県立千厩病院福祉ボランティアの会」があります。

この会の代表を務めているのが、藤野さんです。藤野さんは福祉ボランティアに携わるほか、千厩町婦人協議会会長、一関市地域婦人団体協議会連合会会長といった要職も務めており、毎日忙しい日々を送っています。

病棟ボランティアは平成12年から行っており、もうすぐ10年を迎えようとしています。

「やっぱり患者さんに『ありがとう』と言われることが嬉しいし、励みにもなる。だからやめられない」と高らかに笑いながらおっしゃっています。入院患者へ手作りの読み聞かせ本で楽しませたり、医師だけでなく、その家族も招いてイベントを行ったりと地域の課題を的確に捉えて活動しています。また男女共同参画の分野の寸劇も行っており、県内を飛び回っています。

ベット数の削減や医師不足など、暗い話題が多い中、このような活動は大変貴重なものです。お体に気をつけて、地域をもっと明るくしてください。

あとがき



今回ご紹介した皆さんに共通するのは「笑顔のおすそ分け」による生きがいでした。やはり笑顔は、どこに行っても大切なものだなと感じました。(横)

発行／岩手県保健福祉部長寿社会課
〒020-8570 盛岡市内丸10-1
Tel:019-629-5432 Fax:019-629-5439
企画・編集／岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンター
〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1 アイーナ6階
Tel:019-606-1774 Fax:019-606-1765

もくじ

- 1ページ <特集>
住民が主役！地域が支える
高齢者見守りフォーラムin奥州
- 2・3ページ
<拝啓、がんばっています！>
若葉会（奥州市）
ジャガイモの会（二戸市）
- 4ページ
<キラリ☆シニアライフ>
藤野 宣子さん（一関市）

住民が主役！地域が支える高齢者見守りフォーラム in奥州

平成21年2月25日、奥州市文化会館（Zホール）にて、「住民が主役！地域が支える高齢者見守りフォーラム」が開催されました。（主催：岩手県、高齢者社会貢献活動サポートセンター）

このフォーラムは、孤独死防止を含めた住民による見守り活動などの現状と先進的な取り組みを通じ、住民の支え合いによる高齢者支援のあり方について考えることを目的に開催致しました。本県でも、ひとり暮らし高齢者が増える中、誰にも看取られることなく亡くなる、いわゆる「孤独死」が増加しています。加えて、今年度は二度の大規模な地震に見舞われるなど、住民相互の支え合いの大切さが再認識されました。

当日は400名を超える参加者が集まり、基調講演や住民が主体で取り組んでいる事例紹介、パネルディスカッションが行われました。基調講演は三重県伊賀市社会福祉協議会事務局長の平井俊圭氏を迎え「地域が支える見守り活動～高福祉・高参加の地域づくり～」と題し、地域福祉の推進における住民の力の必要性を訴えました。

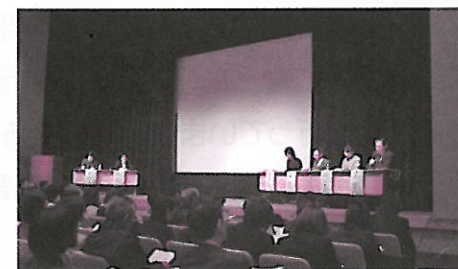
また、住民が主体で行っている高齢者の見守り活動の事例として奥州市社会福祉協議会胆沢・衣川支所長の佐々木イサ子氏、いなせニコニコホットサロンの高橋保行氏、傾聴ボランティアこころの中村久美子氏、紫波中央駅前コミュニティプラザの会の増子義孝氏をお招きし、活動内容の発表や活動を始めた経緯、様々なエピソードなどを交え、活発に意見の交換をしました。

全国的に、総人口における高齢者数や高齢者世帯、要介護・要支援認定者が増加傾向であり、岩手も例外ではありません。世界でも類を見ない高齢社会に突入した今、「お互い様」の意識が必要となってきます。

一人ひとりの力は小さいかもしれませんが、しかし小さな力でも共に手を携え、継続して助け合い、誰もが安心して暮らし続けることの出来るコミュニティを形成していきましょう。



講演する伊賀市社会福祉協議会事務局長平井俊圭氏



住民による支えあいについてのパネルディスカッションの様子



拝啓、がんばっています!

若葉会 ～奥州市前沢区～

平成18年、「若葉会」(代表 菊地市夫さん)は地元有志が集まり、結成されました。郷土の歴史を学び、そして新たな歴史を創る少年たちの、健全育成、豊かな人間愛の創造を目的として、前沢区の各地で紙芝居の公演を行っています。

会員は20名。みんなが集まり、手作りで紙芝居を作っていきます。紙芝居といっても大きさは横100センチ、縦70センチの大きな紙芝居です。

「絵を描くのは大変。けどみんな楽しく描いています」(事務局 高橋ハマさん) 技術の研鑽の場だけでなく、会員同士の憩いの場でもあるようです。

若葉会の主な演目は「とべない飛行場」です。戦時中、奥州地区の少年たちも戦争に駆り出され、辛い環境下の元、飛行場を作った状況を紙芝居にしました。「戦争のおろかさ、平和の尊さを感じて欲しい」と高橋さんは訴えます。

戦争を知らない世代にとって、戦争の話を聴くことは今となっては貴重な経験です。先人たちの苦労や努力によって今の平和があると教えてくれる一作です。

その他若葉会では、地元の小中学校や地区の行事で出前公演をおこなったり、旧正月の行事など世代間での交流も活発に行っています。取材で訪れたこの日も、みずき団子作りやカルタやお手玉などの昔遊びを楽しんでいました。

「体が続く限り、がんばりたい」(高橋さん)とにこやかながらも頼もしい目で語っています。



〈「とべない飛行場」を上演する高橋さん〉



〈カルタを楽しむ地域の子ども達〉



拝啓、がんばっています!

ジャガイモの会 ～二戸市浄法寺～

まだ雪が残る浄法寺に、元気な高齢者の皆さんの笑い声が響く高齢者サロンがあります。「ジャガイモの会」(代表 関力ヨさん)がサロンを運営しており、地域の高齢者の皆さんにふれあいの場を提供する目的で、平成18年に発足されました。

このふれあいサロンは、月3回程度、「2」のつく日に開催しています。サロンの内容は、午前中に血圧測定を中心に保健師さんとの健康相談を行い、昼食をはさんで、午後は季節の催し物を参加者と一緒に楽しんでいます。取材で訪れたこの日は、イスに座って体操をしたり、歌にあわせて介護予防も含めたダンスをしたり、タオルを使った裁縫などで楽しみました。

「皆さん、食事を楽しみにしている。大変だけど、作りがいがある」と関さんはにこやかな表情で語っています。会員の皆さんが丹精を込めて作り、非常にバランスの取れたメニューとなっています。

地域の高齢者に対するケア体制は全国的、全県的に急務となっていますが、なかなか先進的な取り組みは難しいもの。その中で、このようなサロン活動は、地道ながらも継続すれば必ず結果が伴う活動です。サロンの理想は、利用者の方が我が家の様に訪れてくれる事、そして閉じこもることなくふれあいを楽しんでくれることだと思います。

「笑顔で帰っていただくことが、とても嬉しい」(関さん)と、忙しい中、安どの表情を浮かべていました。



〈丹精込めて料理を作る代表の関さん〉



〈輪になって体操をする参加者の皆さん〉